



最高裁秘書第4877号

平成29年12月12日

林弘法律事務所

弁護士 山中 理 司 様

情報公開・個人情報保護審査委員会

委員長 高 橋 滋

理由説明書の写しについて（送付）

下記の諮問について、最高裁判所から当委員会に提出された理由説明書の写しを別添のとおり送付します。

記

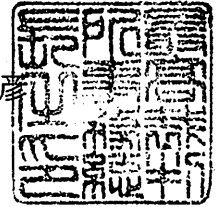
諮問番号 平成29年度（最情）諮問第65号

（担当） 秘書課文書開示第一係 電話03-3264-8330 （直通）

平成29年12月6日

情報公開・個人情報保護審査委員会 御中

最高裁判所事務総長 今 崎 幸 彦



理由説明書

下記1の諮問について、下記2のとおり理由を説明します。

記

1 諮問日等

(1) 諮問日

12月6日

(2) 諮問の要旨

苦情申出人は、最高裁判所がした不開示の判断に対し、「本件対象文書が本当に存在しないかどうか不明である。」旨主張しているが、当該判断は相当であるとする。

2 理由

(1) 開示申出の内容

最高裁が、朝日新聞社等の報道各社からの依頼に基づき、第24回国民審査を受ける最高裁判所裁判官のアンケート回答を送付した際に作成し、又は受領した文書

(2) 原判断機関としての最高裁判所の判断内容

最高裁判所は、(1)の開示の申出に対し、当該申出の対象文書は存在しないとして、11月14日付けで不開示の判断（以下「原判断」という。）を行った。

(3) 最高裁判所の考え方及びその理由

ア 当該申出の対象文書としては、第24回最高裁判所裁判官国民審査に付さ

れた各最高裁判所裁判官から受け取った「アンケート回答書」があったが、同回答書は、すでに報道機関に送付済みであるため、存在しない。また、最高裁判所において、当該申出に係る文書として「アンケート回答書」の他に作成又は取得したものはない。

イ よって、原判断は相当である。